

第1部 序論



榛原東小学校 6年 上林 まりかさん



榛原東小学校 6年 高林 恵里奈さん

第1章 後期基本計画の策定にあたって

1 策定の趣旨

本市は平成20年3月、宇陀市総合計画（基本構想と前期基本計画）を策定し、『自然と共生し、歴史・文化が育む ふれあいと活力あるまち 宇陀市』を将来像とするまちづくりを展開してきました。

前期基本計画の期間中、市立病院の整備、総合こども園構想への取り組み、情報通信基盤の整備、教育環境の整備、観光の振興などを進めるとともに、行政を刷新するという視点から、経常経費の10%削減、職員定数300人体制など抜本的な行財政改革に取り組み、一定の成果が実現しつつあります。

また、この間社会情勢は激しく変化し、長引く世界同時不況の影響、子どもや高齢者を取り巻く社会からの孤立に伴う問題、災害に対する不安の増大、不安定な国際社会情勢など、本市においても少なからぬ影響をあたえています。

このような中で、前期基本計画の計画期間が平成24年度で終了することから、これまでの取り組みの点検と市民ニーズの把握をふまえ、中期的な展望にたった平成25年度以降のまちづくりの方向性を定めるため、「後期基本計画」を策定しました。

後期基本計画では、産業振興、ウェルネスシティの実現、定住促進、市民協働を重点政策としつつ、行財政改革の更なる推進に取り組んでいきます。

2 策定の方針

宇陀市総合計画基本構想は、多くの市民参加のもと、まちづくりの基本理念や将来像を定め、平成19年12月20日に宇陀市議会において議決した構想です。後期基本計画は、この基本構想で定めた将来像をより着実に実現できるよう、次の方針により策定しました。

■優先度を明確にした計画

施策に対する市民の満足度、重要度を把握するとともに、前期基本計画の達成状況を検証し、施策の優先度を明確にした計画を策定しました。

■目標指標を明確にした計画

後期基本計画の計画期間における目標をわかりやすく掲げ、進行管理できるよう、目標指標を明確にした計画を策定しました。

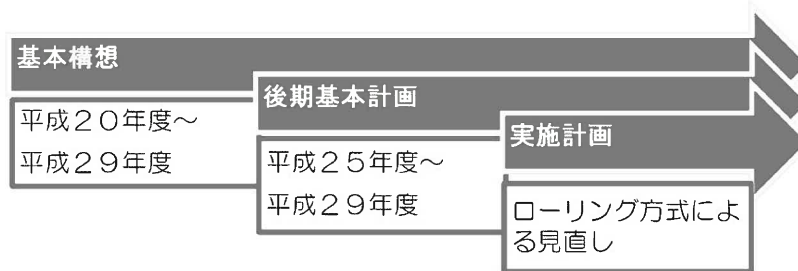
■みんなでつくる計画

審議会をはじめ、アンケート調査やタウンミーティングなど多様な市民参加の機会をもうけ、策定しました。

3 計画の構成と期間

宇陀市総合計画は、「基本構想」及び「基本計画」から構成されています。さらに、計画の進行管理にスムーズに対応できるよう、毎年度「実施計画」を策定しています。

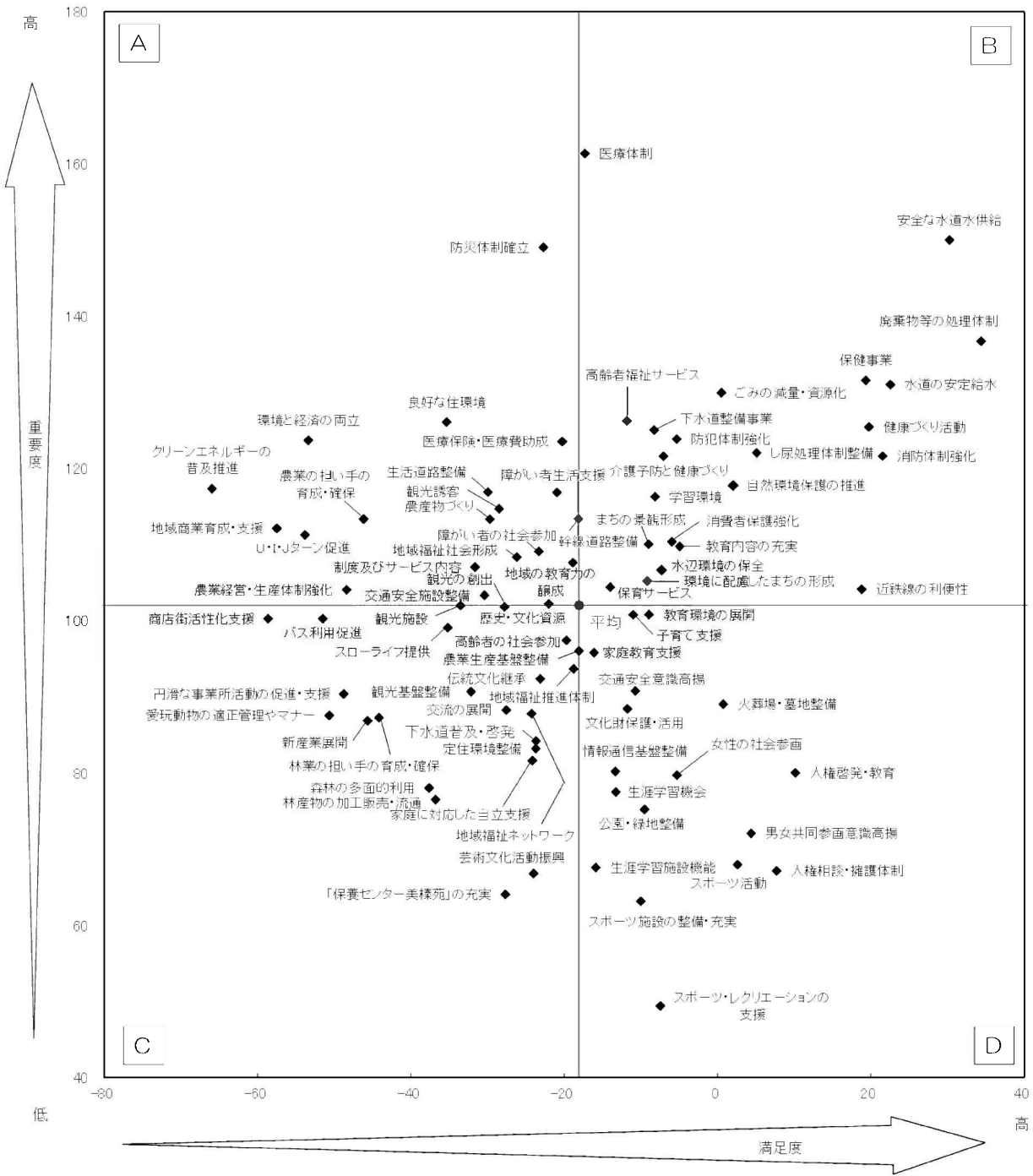
- 「基本構想」：本市の中長期的な発展方向を示すもので、まちづくりの目標となる将来像を描き、その実現に向けたまちづくりの基本的な考え方を示すものです。
平成20年度を初年度とし、平成29年度を目標年次とする10年構想です。
- 「基本計画」：基本構想の描く将来像、目標及び施策の大綱を実現化するための基本的な考え方、施策の展開や主な事業などまちづくりの分野ごとに明らかにするもので、実施計画の枠組みを示すものです。
後期基本計画の計画期間は、平成25年度から平成29年度までの5年間です。
- 「実施計画」：基本計画に基づく事務事業を、どのように計画的かつ具体的に推進するかを年度ごとに明らかにしたもので、組織、予算などの経営管理の指針となるものです。



第2章 市民と行政による前期基本計画の検証

1 市民意識調査による満足度、重要度

前期基本計画の計画期間における施策に対する市民の満足度、重要度を把握するため、平成24年3月に市民アンケートを実施しました。その結果をポイント化し、全体の平均を中心に分布状況を図示すると次のとおりです。



2 行政による前期基本計画の検証

前期基本計画の施策の達成状況について、庁内各担当部局において検証した結果を総括すると次のとおりです。

第1章 自然と共生した快適に暮らせるまち

ほとんどの施策について「ある程度達成できた」と評価され、特に「自然環境保護の推進」（パトロールの実施など）や「し尿処理体制の整備」（合併処理浄化槽の啓発など）は「十分達成できた」とされている。

「公園・緑地の整備」については、地域との連携は「十分達成できた」が、施設の維持修繕や指定管理者制度については「達成できていない」とされている。

第2章 いきいきと健やかなやすらぎのあるまち

ほとんどの施策について「ある程度達成できた」と評価され、特に「地域医療体制の充実」（市立病院の整備）や「保育サービスの充実」（総合こども園構想への取組など）は「十分達成できた」とされている。

一方、「障がい者の社会参加の促進」や「子育て支援の充実」については「あまり達成できていない」とされている。

第3章 安全・安心でうるおいのある定住のまち

『定住拠点の構築』（定住環境の整備など）や『道路交通網の整備』、『上下水道の整備』については「あまり達成できていない」とされている。

『公共交通機関の充実』、『安全・安心な暮らしの実現』（消防・防災・防犯など）、『情報通信基盤の整備』についてはおおむね「ある程度達成できた」とされている。

第4章 一人ひとりが輝き個性・創造を育むまち

『誰もが尊重される共生のまちづくり』（人権の尊重）や『男女共同参画社会の実現』については「あまり達成できていない」とされている。

『教育環境の整備・充実』（小中学校の充実）、『生涯学習の充実』、『スポーツ・レクリエーションの充実』についてはおおむね「十分」あるいは「ある程度達成できた」とされているが、「地域の教育力の醸成」は「あまり達成できていない」とされている。

第5章 地域資源を活かした産業・交流振興のまち

『農林業の活性化』や『商工業の活性化』については「あまり達成できていない」とされている。

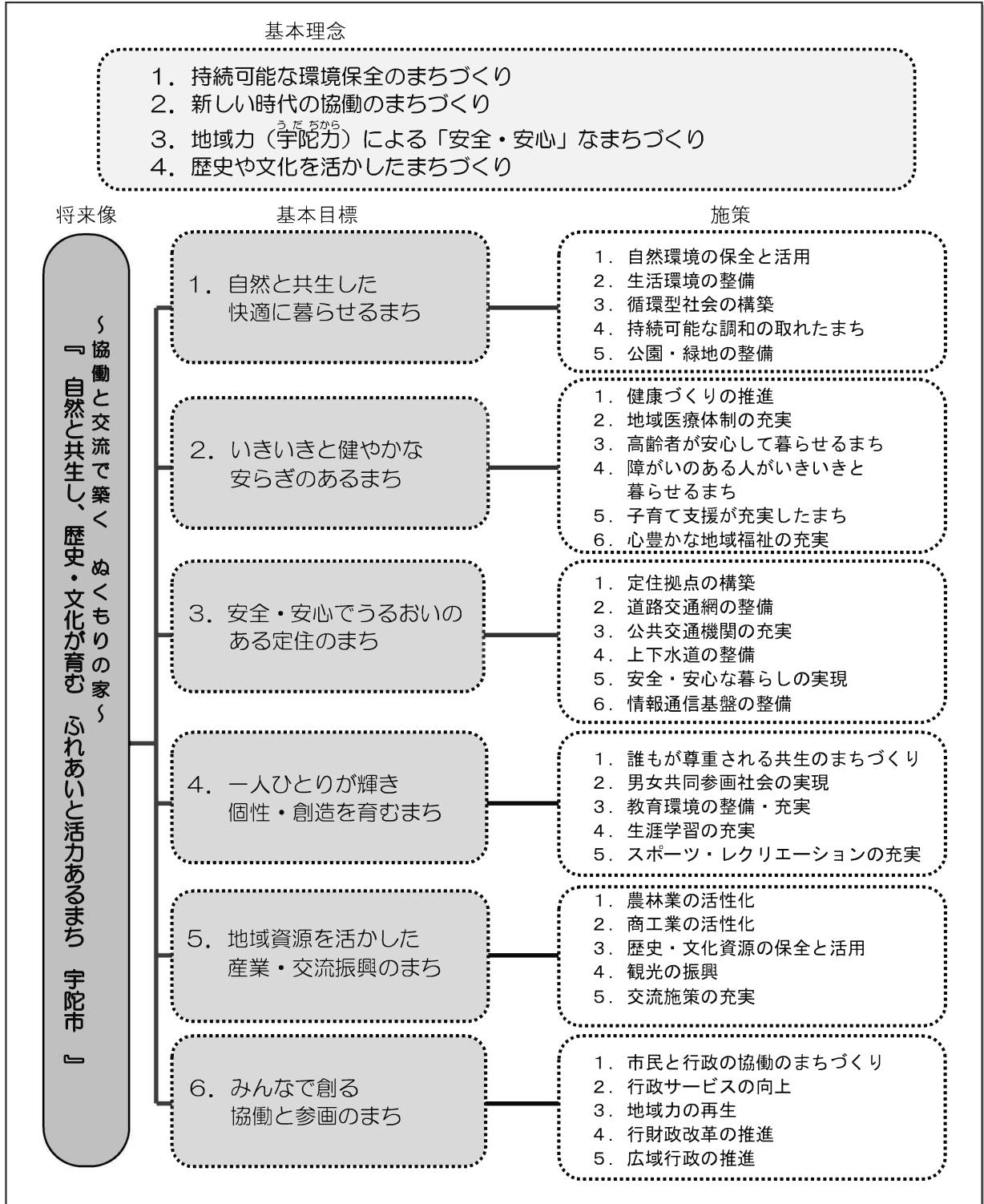
『歴史・文化資源の保全と活用』や『観光の振興』はおおむね「ある程度達成できた」とされている。

『交流施策の充実』のうち「スローライフの提供」や「U・I・Jターンの促進」は「あまり達成できていない」とされている。

第3章 基本構想の概要と後期基本計画

宇陀市総合計画では、『自然と共生し、歴史・文化が育む ふれあいと活力あるまち 宇陀市』を将来像とする10年間の基本構想を定めています。

後期基本計画においても、この基本構想に基づき施策の体系を定めます。



高原の文化都市 四季の風薫る宇陀市をめざして

宇陀市は、行財政改革を着実に進めており堅実な領域に向かっています。後期基本計画においてめざすのは、過疎高齢化、人口減少、地域経済の沈滞に打ち克つ、明日の宇陀市に希望を持てるまちづくりです。

宇陀市の自然や社会、現在の経済環境の中で、子育てしやすい環境をつくり、高齢者や社会的弱者が生きがいを見だし、若者が宇陀市に定住する機運を生み出すためには、市民の皆さん自らが地域をつくり、地域で買い物をし、仕事が生まれ、仕事が増えるしくみを創らなければなりません。

宇陀市は奈良県東部の顔であり、中心であるという認識が定着しました。宇陀市民としての誇りをもって、みんなで「高原の文化都市、四季の風薫る宇陀市」、素晴らしい宇陀市を創りましょう。

【基本的な考え】

宇陀市の経済社会状況、文化や自然環境を活かす、市民が、NPO が、企業が活動できる、活躍できるステージづくり、また市民が安心して住み、暮らすことのできるステージを創っていきます。

産業振興会議の答申、行政刷新会議の答申など、新たな視点での改革改善と宇陀市のまちづくりを着実に実施していきます。

行政経営という視点を持ちながら、宇陀市が中核となる定住自立圏をめざし、便利な住みよい宇陀市づくりを市民と共に着実に推進していきます。

【重点政策】

このような考えから、重点政策を次のように掲げ、後期基本計画の主要施策等に反映します。

☆産業振興

- ・ 農業の先進地
- ・ 6次産業化
- ・ 観光拠点づくり
- ・ (仮称) 宇陀市〇〇王国構想 [産業振興を推進するための組織]

☆ウェルネスシティ

- ・ 健康増進
- ・ 生きがいづくり
- ・ 医療充実

☆定住促進

- ・ 都市と農村の交流
- ・ 住環境の整備

☆市民協働

- ・ 地域の活性化
- ・ 地域力向上

行財政改革の更なる推進

- **ウェルネスシティ**：身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れるまちをめざす考え。